

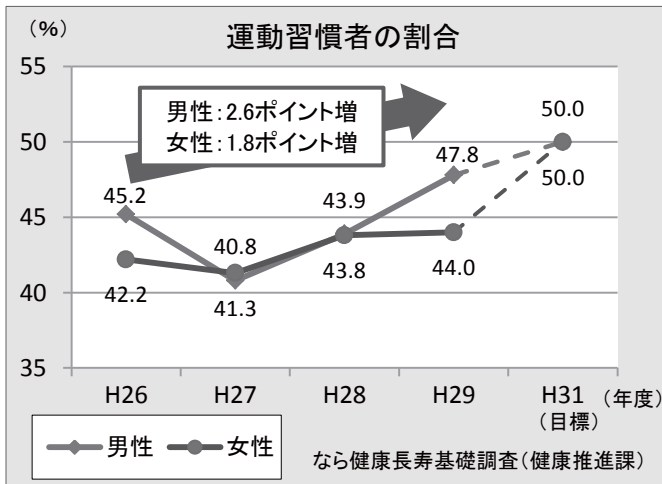
6 スポーツの振興

目指す姿

「活き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」を実現するため、生涯にわたり、「県民のだれもが、いつでも、どこでも運動・スポーツに親しめる環境づくり」を目指します。

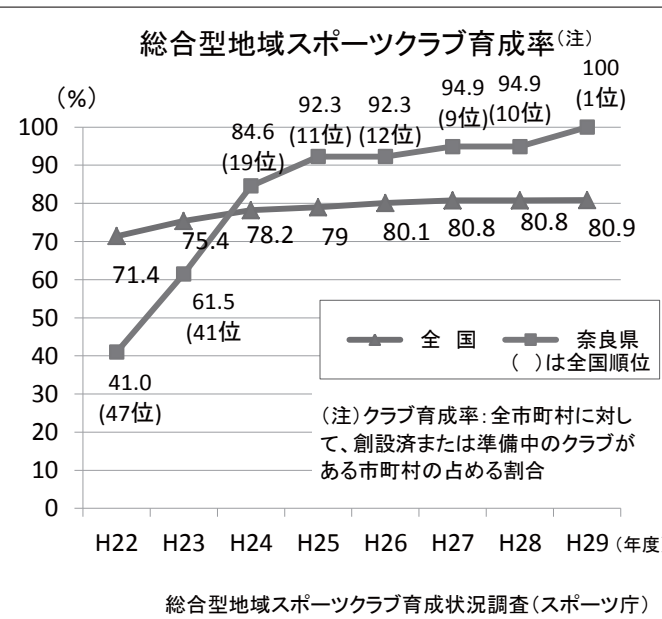
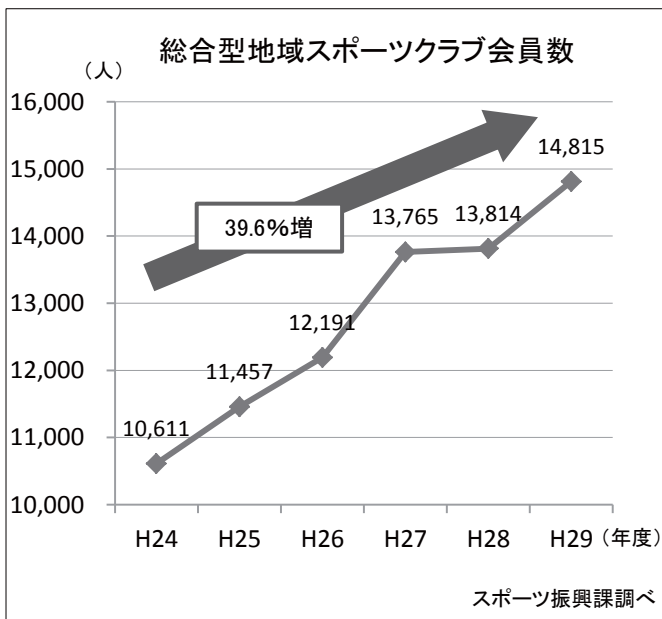
主担当部局(長)名
 暮らし創造部長 榎田 斉志

1. 政策目標達成に向けた進捗状況



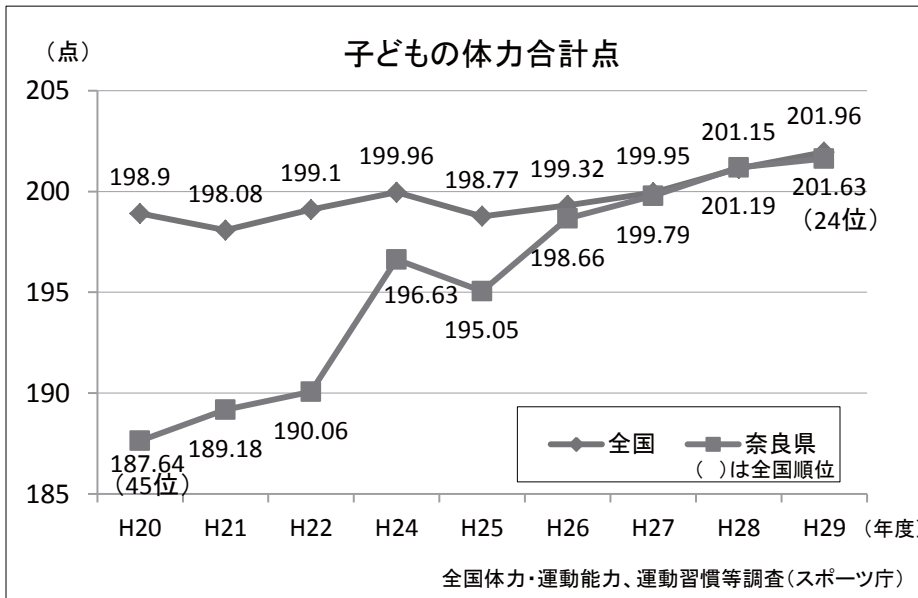
目標	平成31年度までに、1日30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施し、1年以上継続している人の割合を50%以上に増やします。(H26年度: 男性45.2%、女性42.2%)
成果	運動・スポーツを楽しむ環境や機会の提供に取り組んだこと等により、平成29年度の運動習慣者の割合は、特に20歳代の男性等で上昇し、男性が47.8%、女性が44.0%と、平成28年度を上回りました。

2. 現状分析

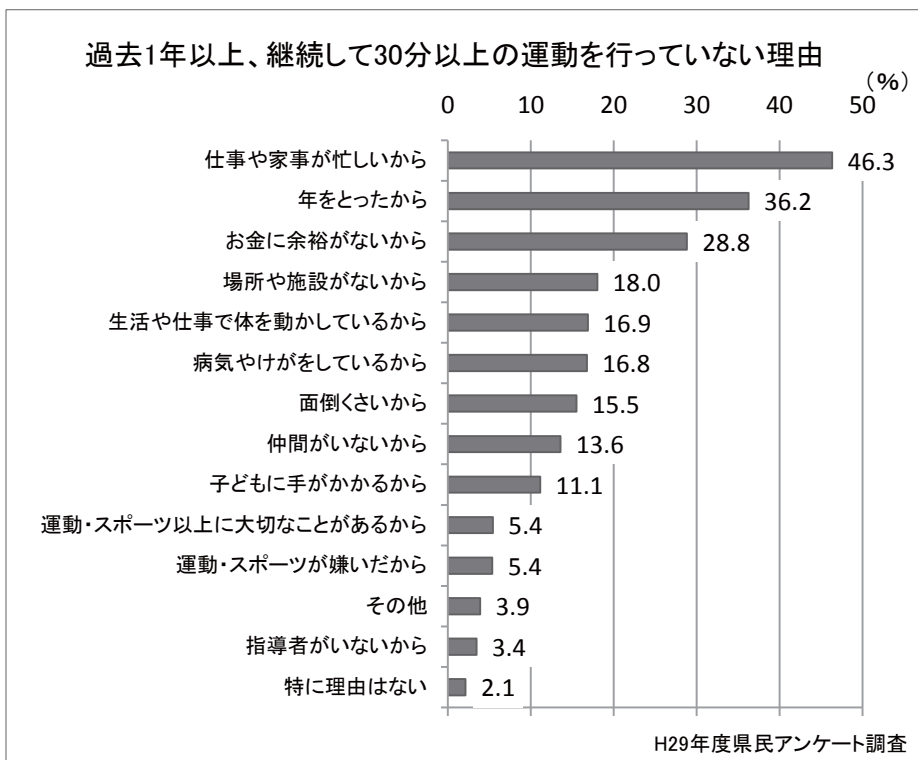


総合型地域スポーツクラブ会員数は、平成24年度の10,611人から年々増加し、平成29年度には14,815人となりました。

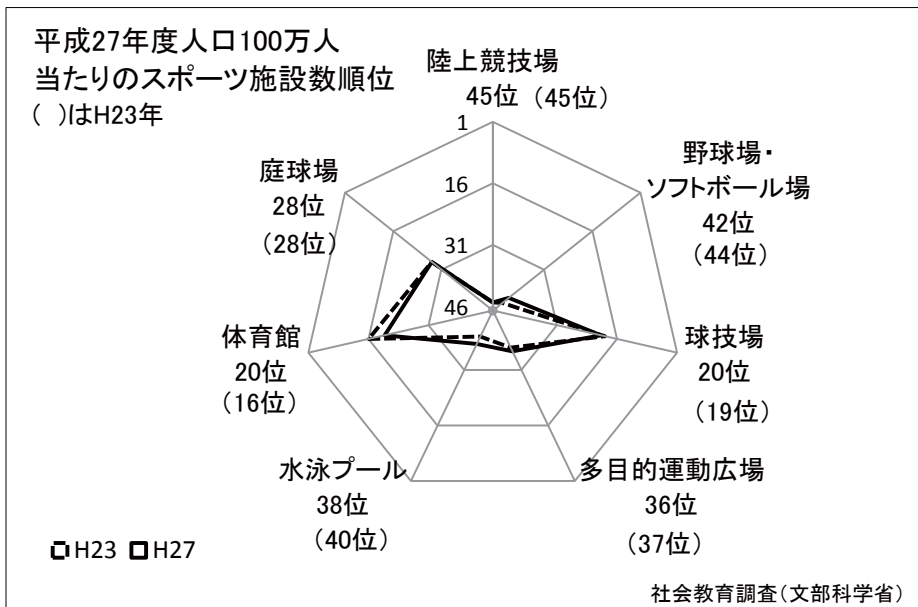
総合型地域スポーツクラブ育成率は、平成22年度は41.0%(全国47位)でしたが、平成29年度には100%(全国1位)となり、全市町村で総合型地域スポーツクラブが設立されました。



奈良県の児童生徒の体力合計点は、平成29年度は全国24位(小学5年生:男子32位、女子31位、中学2年生:男子18位、女子25位)と全国平均並みです。前年度と比較すると、全国平均と同様に、体力合計点の総計はやや上昇しています。(→戦略1)



過去1年以上、継続して30分以上の運動を行っていない人の理由としては、「仕事や家事が忙しいから」が一番多く、次に「年をとったから」「お金に余裕がないから」「場所や施設がないから」などとなっています。これは、スポーツの価値・楽しさへの意識の低さや、気軽にスポーツに親しめる環境の不足に起因すると思われます。(→戦略1)



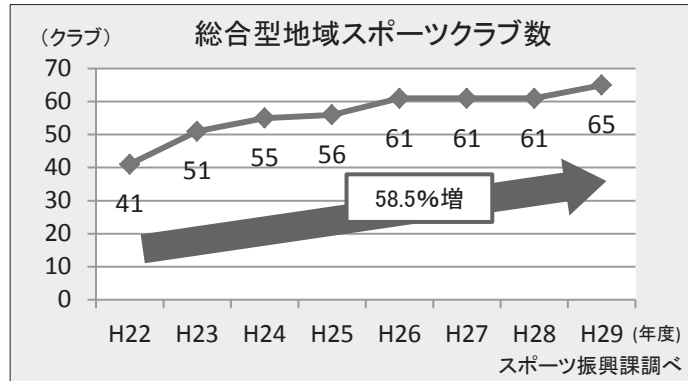
人口100万人当たりの主なスポーツ施設数は、体育館と球技場は全国で20位ですが、それ以外の施設数は低位にあり、奈良県内におけるスポーツ施設の少なさが顕著となっています。(→戦略1)

3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

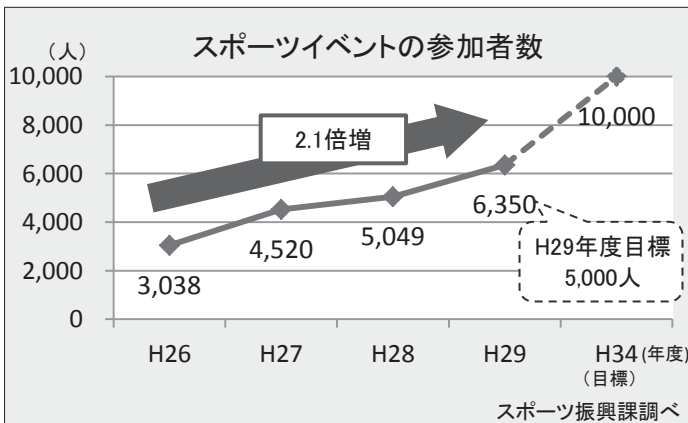
戦略1 だれもがいつでもスポーツを楽しめる環境の整備、地域で楽しむスポーツの推進を図ります。

主担当課(長)名 スポーツ振興課長 三原 耕治

戦略目標	①県内にある総合型地域スポーツクラブのうち、活発な活動をしているクラブを増やします。 ②スポーツイベント(総合型地域スポーツクラブ交流大会)の参加者数を平成29年度までに5,000人、平成34年度までに10,000人に増やし、スポーツツーリズムを推進します。(H26年度:3,038人)
------	--



目標	県内にある総合型地域スポーツクラブのうち、活発な活動をしているクラブを増やします。
成果	総合型地域スポーツクラブ数は、市町村等に対する巡回相談や講習会実施等の支援により、平成22年度の41クラブから、平成29年度は65クラブへと増加しました。また、クラブ同士が交流するスポーツイベントの参加者数も増加しており、活発に活動するクラブが増加しています。



目標	スポーツイベント(総合型地域スポーツクラブ交流大会)の参加者数を平成29年度までに5,000人、平成34年度までに10,000人に増やし、スポーツツーリズムを推進します。(H26年度:3,038人)
成果	県内の総合型地域スポーツクラブが活発化してきたこと等により、スポーツイベントの参加者数は、平成26年度の3,038人から年々増加しており、平成29年度は6,350人となり、平成29年度目標の5,000人を上回りました。

主な取組指標等

総合型地域スポーツクラブによる基盤づくり(①)		
県が配置するクラブアドバイザーによる巡回指導回数		
123回 (H26年度)	➡ 5.7%	130回 (H29年度)

参加型スポーツイベントの実施(①,②)		
奈良マラソンへの奈良県民エントリー人数		
7,434人 (H24年度)	➡ 6.7%	7,933人 (H29年度)

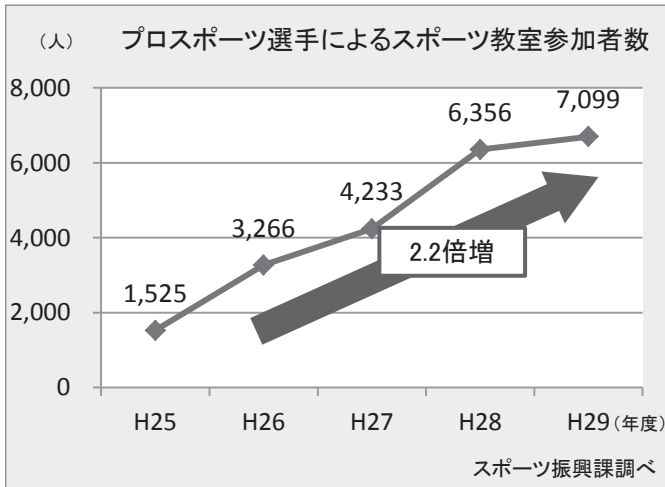
身近な公共施設等の活用(①,②)		
橿原公園におけるナイトラン参加者数		
20,364人 (H24年度)	➡ 24.0%	25,250人 (H29年度)

南部・東部地域の振興を目指したスポーツイベントの実施(①,②)		
サイクルスポーツイベント、アウトドアチャレンジレースへの参加者数		
2,100人 (H26年度)	➡ 7.2%	2,251人 (H29年度)

ライフステージに応じた運動・スポーツの推進(①,②)		
トップアスリートと子どもとの交流イベント参加者数		
672人 (H24年度)	➡ 3.9倍	2,624人 (H29年度)

障害者の運動・スポーツの推進(①,②)		
障害者スポーツ大会参加者数		
1,060人 (H24年度)	➡ 6.2%	1,126人 (H29年度)

戦略目標	①平成34年度までに、多くの人にあこがれや感動を与えるプロスポーツ等の試合数を60試合に増やします。(H26年度: 32試合)
------	---



目標	平成34年度までに、多くの人にあこがれや感動を与えるプロスポーツ等の試合数を60試合に増やします。(H26年度: 32試合)
成果	スポーツの活性化と子どもたちへあこがれや感動を与えるため、県内で行われるプロスポーツの試合に合わせて、普段はあまり接することのできない選手による野球教室等を開催しました。また、バンビシヤス奈良等プロスポーツチームによるスポーツ教室も開催され、延べ7,099人の少年少女が参加しました。

主な取組指標等

トップアスリートの育成(①)		
国民体育大会の総合成績※		
35位 (H24年度)	➡ 16位	19位 (H29年度)

トップアスリートの育成(①)		
スポーツ指導者者数 (日本スポーツ協会公認)		
2,751人 (H24年度)	➡ 18.6%	2,239人 (H29年度)

プロスポーツ等の試合の招致(①)		
プロスポーツ等の試合数		
5試合 (H24年度)	➡ 11.0倍	55試合 (H29年度)

※は数値の低い方が良くなる指標

数値で表せない成果

近畿大学と連携して、幼児向け運動・スポーツプログラムを近畿大学附属幼稚園においてモデル実施し、プログラムの改良を行いました。また、その成果を平成30年3月の奈良県教育サミットで発表しました。(平成30年度 県内の幼稚園に普及拡大予定)

東京オリンピック・パラリンピックキャンプ地招致に向け、昨年度に引き続き、オーストラリア、香港において招致活動を実施するとともに、カザフスタン、ウクライナ等の視察受入を実施しました。また、平成29年7月に、天理市スポーツキャンプ地推進実行委員会を設立しました。(平成30年度 招致国決定を目指して継続的に交渉)

「ワールドマスターズゲームズ2021関西」にかかる大会の準備・運営等を行うため、平成30年2月に「ワールドマスターズゲームズ2021関西」奈良県実行委員会を設立しました。(平成30年度 「ワールドマスターズゲームズ2021関西」奈良県実行委員会にかかる基本計画を策定予定)

4. 平成31年度に向けた課題の明確化

<政策目標達成に向けた主な進捗状況>

運動・スポーツを楽しむ環境や機会の提供に取り組んだこと等により、平成29年度の運動習慣者の割合は、特に20歳代の男性等で上昇し、男性が47.8%、女性が44.0%と、平成28年度を上回りました。

<戦略目標達成に向けた主な進捗状況>

県内の総合型地域スポーツクラブが活発化してきたこと等により、スポーツイベントへの参加者数は、平成26年度の3,038人から年々増加しており、平成29年度は6,350人となり、平成29年度目標の5,000人を上回りました。

<奈良県の持っている強み>

- 1 平成29年度の奈良マラソン出走者数は11,964人(フルマラソン)となっており、地域のイベントとして定着
- 2 奈良マラソンは、名所を巡るコース設定や、ボランティアによるおもてなし、沿道からの応援について、参加ランナーから高い評価を得ている
- 3 奈良県は、豊かな自然、起伏のある地勢、美しい風景や歴史的な景観、文化財をはじめとする観光資源等が豊富
- 4 総合型地域スポーツクラブ育成率が全国平均よりも高い

<奈良県の抱えている弱み>

- 5 青壮年期(20~64歳)の運動習慣のある人の割合が低い
- 6 プロスポーツ観戦に行く人の割合が低い
- 7 スポーツ施設が少ない
- 8 大きなスポーツイベントを招致できる施設が不足
- 9 キッズ・ジュニア期からの選手強化体制・施設が整っていない
- 10 プロスポーツチームが少ない
- 11 奈良県を拠点にする実業団チームが少なく、能力を持った高校生・大学生が県外に流出

<奈良県への追い風>

- a ウォーキングやジョギング、サイクリング等健康づくりが全国的なブーム
- b リオオリンピック、パラリンピック等で奈良県ゆかりの選手が活躍
- c 2019年ラグビーワールドカップの日本開催。試合会場の1つに近隣の東大阪市や神戸市が決定
- d 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催
- e ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催。県内市町村においても、競技大会の開催が決定
- f スポーツツーリズムへの関心の高まりとともに、国においても観光立国の実現に向けた取組を積極的に推進

<奈良県への向かい風>

- g 趣味・趣向の多様化
- h 移動手段等の利便性の向上による運動不足
- i 子どもの外遊びの機会が減少
- j 各都道府県・市町村も市民参加型のスポーツイベントに力を入れた結果、県外で類似のイベントが増加
- k スポーツ施設の老朽化

<強みで追い風を活かす課題>

- 【重要課題】**総合型地域スポーツクラブの活性化(4,a)
- ・参加型スポーツイベントの実施(1,2,3,4,a,f)
- 【重要課題】**東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地招致(2,b,c,d)
- ・スポーツツーリズムの推進(1,2,3,a,e,f)

<強みで向かい風を克服する課題>

自然、地勢、景観、歴史等、奈良県の特性を活かした奈良らしいスポーツイベントの開催(3,g,i,j)

<弱みを踏まえ追い風を活かす課題>

- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けたジュニア・トップアスリート育成(9,11,b,d)
 - ・東京オリンピック・パラリンピック等キャンプ地招致に向けた環境整備(7,8,c,d)
- 【重要課題】**幼児向け運動・スポーツプログラムの普及促進(9,a)
- ・トップアスリートを活用したスポーツイベントの実施(6,8,10,b)
 - ・青壮年期の運動・スポーツへの誘導(5,6,8,10,a,c,d,e)

<弱みを踏まえ向かい風に備える課題>

【重要課題】中長期的な視点からの県内スポーツ施設の整備・運営の検討・推進(7,8,10,g,i,k)

5. 平成28年度の評価を踏まえ、平成30年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
参加型スポーツイベントの実施(戦略2)	奈良マラソンのスポーツイベントの開催にあたり、イベント参加者へのアンケートをもとにニーズを把握し、レース前の混雑によるランナーのストレス軽減対策を図るなど、内容の見直し・充実を行いました。

6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
総合型地域スポーツクラブの活性化(戦略1)	総合型地域スポーツクラブの設立支援とともに、クラブの自立的な運営に向け、質的な充実に重点を置いた支援を行います。
東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地招致(戦略2)	これまでにキャンプ地招致活動を行った国・組織と継続的に交渉し、招致国決定を目指します。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
幼児向け運動・スポーツプログラムの普及促進(戦略2)	スポーツ医科学に基づくプログラムを、平成29年度にモデル幼稚園において実践し、改良しました。平成30年度は県内の幼稚園に拡大して実践し、普及を図ります。

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
中長期的な視点からの県内スポーツ施設の整備・運営の検討・推進(戦略1)	中長期的な視点による県内のスポーツ施設のあり方(機能・規模・配置・整備手法等)について検討を行い、(仮称)奈良県スポーツ施設整備ビジョンを策定します。